



祝

福岡県腎臓病患者連絡協議会

結成四十周年記念大会開催

六月三十日(日)に福岡県腎臓病患者連絡協議会(以下福腎協)の結成四十周年記念大会が行われました。「さわやか」より山田理事長が、「ご招待をいただき出席させていただきました。」

医療関係者や全腎協、九州各県の県腎協の役員をはじめ、県内の会員、家族など約千人余りが参加し、会場である福岡国際会議場のメインホールは、ほぼ満席となりました。

大会は開会宣言の後、塩屋利且福腎協会長の挨拶がありました。
先人の方々の
精神を受け継ぎ、

さらに次の世代に

塩屋会長は、「四十周年を迎え、ここまで活動を続けることができたのも、行政や県透析医会をはじめ関係機関の皆様方の温かいご指導とご支援のお陰と心より厚く御礼申し上げます」と感謝の意を述べました。それから福腎協の歴史というところで、結成当時の話をされ、先人の方々が、命



福岡県腎臓病患者
連絡協議会
塩屋利且会長

をかけて結成し、そして今日までその精神を受け継ぎ、さらに次の世代に伝えなければならぬということに熱く語られました。

次に宮家隆次博士への感謝状の贈呈式がありました。

宮家博士は、一九七七年に熊本大学第二内科において、高純度エリスロポエチン蛋白の純化・精製を可能にされました。

それにより、透析患者の貧血の治療は劇的に改善されました。

その功績を称えられ(社)全国腎臓病協議会から感謝状が贈呈されました。

その後、特別講演として、福岡腎臓病内科クリニック院長藤見 惺先生が「透析患者さんと歩んだ四十年」と

題して講演されました。

藤見先生の学生時代のお話や、日本の透析医療の歴史とともに歩んで来られた先生のお話は、涙や笑いがあり、そして重く温かい気持ちと言葉に包まれているものでした。

引き続き、パネルディスカッションで、藤見先生とその「お弟子さん」と言われる三人の先生方で、「語

みんな de Bousai

まちづくり車座集会

地域の防災について、皆さんで一緒に考えませんか?

六月二十七日(木)十三時より門司生涯学習センター(北九州市門司区)で北九州市危機管理室主催の「みんな de Bousai まちづくり車座集会」地域の防災について、皆さんと一緒に考えませんか?と題してミニ講演と意見交換会が開催され、「さわやか」から四名が参加しました。

二年前から

防災計画の見直しに着手

初めに松崎茂北九州市副市長より「東日本大震災から二年三ヶ月が経過しましたが、未曾有の大災害に対して、本市におきましても二年前

ろう!日本における透析医療」と題してわかりやすく、そして楽しく話をしてくださいました。

その後参加者全員で、「透析弁当」をいただきました。午後からの第二部は精華女子高等学校吹奏楽部の華麗な演奏会があり、参加した私たちは、勇気と元気をもらい、福腎協結成四十周年記念大会は幕を閉じました。

から防災計画の見直しに着手していく中で地域コミュニティの助け合いが過去の経験から多くの命が助けられておりました。そこで地域の防災力を向上させていくには直接皆さんのご意見を頂く事が大事な事だと思えます」と挨拶されました。

続いて第一部の「住民・地域主体の防災について」と題して北九州市防災アドバイザーでもあり『釜石の奇跡』で知られる群馬大学理工学研究院環境創成部門の片田敏孝教授のミニ講演



片田氏は「東日本大震災の時に釜石の子供たちは、自分で出来る限りの避難を懸命に行い、大津波を生き抜きました。」

避難三原則が守った

子どもたちの命

その時に子どもたちが身につけていたのは学校の防災教育で教えた『想定にとらわれるな』、『最善を尽くせ』、『率先避難者たれ』の避難三原則でした。

決して自然を侮る事なく、大丈夫かと思いがちな自分に打ち勝ち、避難しようとならない大人たちを懸命に説得して避難をしました。

その子どもたちの姿勢には、大人たちが失いかけていた『自分の命は自分で守る』という防災の基本がしっかりと根付いていました。

釜石の防災教育に先生方と取り組んで七年の月日が経過したあの日、釜石の多くの子どもたちは教えを守ってくれました。

(裏面へつづく)

事務局よりお盆休みのお知らせ

8月13日(火)から

8月16日(金)まで

お休みします。



まちづくり車座集會とは……

わたしたちのまちから災害による犠牲者を出さない

北九州市では、平成二十三年三月十一日に発生した東日本大震災の教訓と、岩手県釜石市をはじめとする被災地支援の経験を踏まえて、北九州市の防災の基本計画



北九州防災アドバイザー
群馬大学
理工学研究院環境創成部門
片田敏孝教授

である「北九州市地域防災計画」は二年間をかけて大幅な見直しを行なってきました。

見直しにあたっては、「釜石の奇跡」で知られる群馬大学の片田敏孝教授を座長とする「北九州市地域防災計画見直し検討会」を設置し、災害想定や計画の基本的な考え方などを中心に議論してきました。その議論の中で、過去の

大規模災害では、自分自身や家族の力のもとより、ご近所さんなど地域住民の力により多くの命が救われたことなどから、地域コミュニティが持つ防災の力「地域防災力」の重要性が多く語られました。

このような背景から、北九州市の『地域防災力』の向上を目的に、片田教授と地域のみなさんが膝を突き合わせ、地域の防災について意見交換をする場を設けることにしました。



- ① 自助意識の醸成
自らの命は自らが守るという住民の『自助』意識を育み、住民の主体的な防災対策を促進
- ② 共助の風土づくり
隣近所の付き合いを大切にしながら地域住民が助け合う『共助』による防災対策を促進
- ③ 公助の推進
防災関連行政機関、地域企業等との連携の工夫、効果的な防災施設の整備、避難計画の策定・周知など、実効性のある『公助』の取

り組みを推進
この三つの基本方針のもと、市民の皆さんが災害に対する意識や行動を固定化しないよう、従来のように一つの災害を想定して防災を呼びかけるのではなく、北九州市で発生する可能性があらゆる複数の想定をお知らせし、想定を超える災害が発生した場合でも、一人ひとりが『命を守り抜く』行動を率先して行う事が出来る防災対策を進めていきます。

『人が死なない防災』と『想定を超える災害にどう備えるか』
このような大きな災害を踏まえ、地域防災計画書の中に『人が死なない防災』と『想定を超える災害にどう備えるか』の二つの柱を提案しました。

苦しみを二度と
起こしてはいけない
最初に北九州市立大学地域共生教育センター大西氏は「半年に一度、南三陸町のボランティアセンターの活動を通じて瓦礫の撤去や仮設住宅に生まれている方々と交流をさせて頂いている事を北九州市の皆さんにご報告をするボランティア活動をさせて頂いています。活動の中で、このような震災の悲しみや苦しみを二度と起こしてはいけな」と思いました」と話されました。



A副会長福原氏は「もし今、地震が起きた場合、自分の命をどのように守るのかを家族で話し合い、大人たちが責任を持って子どもたち」に防災について話していく事が大事だと思いましたが」と話されました。
次に門司区民生委員児童委員協議会上田氏は「民生委員の役割とは地域住民の生活状況を把握し、生活困難者の相談を受け、関係団体に連絡して、助けていく事です。その役割を果たす為にある程度の住民の情報を頂いて、活動を行って頂いますが、守秘義務もあり、情報を公開する事は出来ません。しかし、自分で集めた情報を皆さんと共有しながら活動する事は出来ます」と話されました。
その後質疑応答が行われ、市民の皆さまの熱心さを象徴するように、たくさん意見や質問が出され、ひとつひとつ丁寧に答えて頂きました。
最後に片田氏より「本日頂いた意見は、真摯に受け止めて今後の防災への対策に役立てていこうと思えます」と話され、十五時三十分ミニ講演及び意見交換会は終了しました。